

俳人協会熊本県支部

第13号 R2年2月

支部長：永田満徳
事務局長：加藤いろは
広報担当：永田満徳

「俳人協会熊本県支部第21回俳句大会」迫る！ 本部派遣講師に「かつらぎ」主宰 森田純一郎氏

熊本県支部主催の第21回俳句大会は、くまもと県民交流館パレア 第一会議室を確保し、4月18日（土曜日）に開催することに決定しました。

協会本部へ講師兼選者の派遣を依頼しましたところ、俳誌「かつらぎ」主宰で俳人協会評議員の「森田純一郎」先生の派遣が決まりました。

開催日と会場の決定をみて、熊本県、熊本市、熊本県俳句協会、熊本県文化協会、熊本日日新聞社、熊本放送（RKB）へ後援の依頼を、また選者も俳人協会評議員の柴田佐知子氏、俳人協会評議員の野中亮介氏、熊本県俳句協会長の光永忠夫氏、それに当支部顧問の今村潤子氏、永田満徳支部長へと依頼状を発送しました。それぞれより承諾の回答を頂いています。

投句は、俳誌や新聞等に掲載されたり、テレビ・ラジオ等で放送されたりしていない未発表の句、二句一組として何組でも可とし、投句料は一組1000円、投句締切日は3月10日（火）としています。

表彰は大会大賞1句、後援して頂いた各団体の賞（熊本県知事賞、熊本市賞、熊本県文化協会賞、熊本県俳句協会、熊本日日新聞社賞、熊本放送賞）を各1句、選者賞として、特選1句、秀逸4句、佳作10句を選んで賞います。

投句の送り先は、熊本県支部事務局へお願いします。協会会員はむろんのこと、句会のお仲間へ投句して頂きますようお願いいたします。

事務局長 加藤いろは

俳句大会要項の骨子！

日時 令和2年4月18日（土） *受付：午後1時より
会場 くまもと県民交流館パレア 第1会議室
投句 雑詠 2句1組（未発表句） 幾組にても可
投句料 2句1組 1000円（郵便小為替）
※投句料送付方法は別紙の俳句大会要項参照
締切 令和2年3月10日（火）※当日消印有効
投句先 〒862-0908
熊本市東区新生2-6-2 加藤いろは方
俳人協会熊本支部俳句大会 係

役員名簿

一部改選
任期：令和元年～令和2年

支部長	永田 満徳	副支部長	永田 満徳
事務局長	加藤いろは	会計担当	安倍真理子
監事	浦 みつる	幹事	（新） 小山 禎子
顧問	富永 小谷		今村 潤子
			西村 泰三
			（新） 児玉 文子
			川本美佐子
			佐藤 澄世
			西浦 大蔵
			松下美奈子
			菅野 隆明
			米村 恒憲



ご理解とご協力をお願いします
支部長 永田満徳

明けましておめでとうございませう。
梅便りが例年より早く聞こえる今日この頃、いかがお過ごしでしょうか。

今年には熊本県支部主催の俳句大会は「第二十一回」を数え、新たな歴史を刻むべく踏み出しています。本部からは俳誌「かつらぎ」主宰の森田純一郎先生を講師・選者として派遣して頂きました。

少子高齢化による投句者の減少は著しく、ここ数年の投句数から言って、熊本県単位では俳句大会を行えなくなっています。皆さんの力を結集し、大会を盛り上げて頂きたいと思っております。

熊本県支部は県支部単独の「俳句大会」、年3回の「交流句会」（総会時の交流句会、県支部交流吟行句会、結社合同吟行句会）、年3回の「役員会」、年2回の「支部報」の発行など、支部活動としては全国的に見てもよく活動しています。しかし、俳句大会が赤字を出す状況では俳句大会の残金で支部活動費を賄ってきたり、支店活動の円滑で安定的な運営資金を得るために、今年度から支部会費を徴収します。

県支部の実情をご理解頂き、皆さんのご協力を得ながら、難局を乗り越えていきたいと思っております。

最後になりましたが、皆さんのご健康とご健吟をお祈り致します。

「支部総会」と「交流俳句会」 和気藹々と！！

俳人協会熊本県支部の令和2年度総会が1月25日、熊本市民会館で54名の会員のうち10名の参加で開催された。

当日は雨模様にもかかわらず参加した会員によって、令和元年度事業・会計報告、2年度事業計画などが承認され、俳句大会の実施や会員研修の充実等について熱心に検討された。

特に、会計の安倍真理子氏から第20回記念俳句大会について詳しい分析がなされ、投句数が684句（18回）から568句（19回）、520句（20回）と減少を続けていること、さらに大会収支がついに赤字に転じたという説明がなされた。これは支部運営の根幹に関わる問題であり、課題であった支部会費の徴収について、しっかりと審議が必要であるとされ、時間をかけて検討した結果、令和2年度から徴収に踏み切り、その後の経過を受けて、支部活動全般について検討することとなった。

支部長の永田満徳氏は、熊本の俳句文芸の灯を絶やさず、さらに発展させていくためにも、4月18日（土）の俳句大会の成功と年間活動のさらなる充実を図るために、すべての会員の皆様の参加、協力をお願いしたいと参加者に呼びかけられた。また、支部が後援している各種の俳句大会や研修活動にも積極的な参加を期待しているということであった。

（文責・田島三間）

当日の交流俳句会の主な作品は次のとおりである。

右肩に降りくる糞や春隣
安倍真理子
掠れ良き愛の一字の筆始
岡山 裕美
寒風や番号書き城の石
小山 慎子
あたたかきものにレノンの鼻めがね
加藤いろは
早梅のあのねあのねと開きけり
児玉 文字

冬木立飾らぬといふ潔さ
菅野 隆明
笹鳴ののびやかなるや本妙寺
田島 三間
初風呂や常の仕事をやりに終へて
永田 満徳
あらたふと病ひの孫の夜護る咳
米村 恒憲
海沿ひの生家は女系初茜
若松 節子



熱心な討議

俳人協会第14回九州俳句大会 長崎・サンプリエールにて

公益社団法人俳人協会第14回九州俳句大会が令和元年10月6日に長崎市元舟町のサンプリエールで九州各県から約150名の参加で開催された。担当は長崎県支部。

当日は快晴の秋日和であり、翌日から長崎くんちが盛大に行われることもあって、市内のあちらこちらで祭の準備が行われていた。

開会の言葉、実行委員長の挨拶につづき、俳人協会理事長の能村研三氏の講演が行われた。講演は「俳句は姿勢（福永耕二の思い出）と題して行われ、氏の父である能村登四郎氏と福永耕二の関わりや句作の姿勢についてわかりやすく話された。

長崎県支部の努力が実を結んで、全国各地の627名から1656句の投句があり、盛大な大会となった。（文責・田島三間）
大会の各賞は次のとおりである。

【大会賞】

蝶の昼赤子てのひらより眠り
大分 富川 元女

【準大会賞】

医大生のままの弟長崎忌
福岡 古賀 紀子

【長崎県文芸協会賞】

千羽鶴一羽も翔へぬ長崎忌
長崎 牧嶋貴美子

【長崎県俳人会賞】

同居するだけの孝行瓜を揉む
大分 横山八千代

【長崎新聞社賞】

星飛ぶや父母の戦後の長かりし
鹿児島 鹿児島 中間 恵子

【西日本新聞社賞】

塩壺にしほと母の字夜の秋
愛知 古賀勇理央

加藤いろは氏 受賞風景



【NBC長崎放送賞】

鷹柱風の蝶旋を競りのぼる
長崎 奥村 ちか

【NCC長崎文化放送賞】

どの坂も海より生まれ花朱戀
長崎 荒井千佐代

【県内からの特選入賞は二人】

鈴木しげを 特選
枇杷の実を擁ぐ手聖母に祈りけり
建部 洋子

深野 敦子 特選
雨傘をけふは日傘にオランダ坂
加藤いろは